

武蔵野市
中高生世代ワークショップ

Teens ムサカツ

令和5年度

武蔵野市 中高生世代ワークショップ「Teensムサカツ」

「"こんな場があったらいいな"を市政に」

提言まとめ



「友だちと気軽に集まれる場があったらいい」「学校外でなにかやってみよう」…

ふだんなんとなく思っていることはある。でも、だれかにしゃべったり聴いてもらったりすると、自分の想いにあらためて気づくこともある。自分の願いがだれかの願いとつながると、「自分たち」の願いに広がっていく。「自分たち」が声をあげると、小さなことでも何かが変わっていくかもしれない。

中高生世代のみなさんの「意見表明」や「参画」を支える取り組みの一つが、Teens ムサカツというワークショップです。この報告書は、令和5年度のTeens ムサカツの「市政提案会」で表明された各グループの願いや提案を中心に、ワークの中で聴かれたさまざまな「声」を載せています。ぜひ中高生世代、市民の方々に読んでいただき、受けとめや提案などさまざまな「声」がさらに広がっていくことを願っています。

もくじ

はじめに	3
Teens ムサカツとは?	4
提言まとめ	6
提案会に参加してくれた大人の声	15
グループファシリテーターの振り返り	16
ムサカツ参加者の振り返り	17
おわりに	18



Teens ムサカツとは？

Teensムサカツは、「武蔵野市について(ムサ)、語って(カ)、つながる(ツ)」をテーマにした、中高生世代対象のワークショップです。若者世代が武蔵野市について関心を持ったり、自分たちの世代向けの事業について提言を行ったりできる場をつくり、中高生世代の声を市政に届けることを目的としています。

令和5年度の年間テーマは、「こんな場があったらいいな」を市政に。令和5年4月に施行された武蔵野市子どもの権利条例では、「市は、子どもが自分らしく居られる多様な居場所づくりを推進します」(第13条1項)と定めていることから、中高生世代は「居場所」についてどのような願いを持っているのか、当事者の声を集めていくことをねらいとしました。全6回のワークの中で、まずは日頃感じていることをお互いに言葉にしあい、最終的には、中高生(同)世代交流ができる場、多世代交流ができる場、運動・スポーツができる場、という3つのテーマについて、自分たちの願いや実現のためのアイデアを市政に提言しました。

令和5年度テーマ こんな場があったらいいな

1 お互いを知る

第1回は参加者が初めて出会う大切な場。中学1年生から高校3年生まで幅広い年代が全6回のプログラムを1つのチームとして取り組むために、アイスブレイクや地域での過ごし方をシェアするワークを行いました。

2 考える方法を学ぶ

幅広くアイデアを出すための思考方法を養おう!というテーマのもと、新しい視点で物ごとを考えるワークを実施。目先の課題ではなく、より先を見据え、「ほしい未来」を想像した時に何が必要か?を考えました。

3 願いを知る、考える

年間テーマを考えていく上で、自分がほしい、あるいは課題に思う居場所のあり方について意見交換を行いました。事前アンケートやヒアリング、セッションを通じて参加者それぞれが今後深めていくテーマを決定しました。

4 場所、人と出会う

第3回で決定したテーマごとに、それぞれフィールドワークを行いました。実際に施設を見学したり、様々な場の運営に関わる方の話を聞く中で、ばやけていた自分たちの願いの輪郭が少しずつくっきりし始めました。

5 提案を作る、深める

これまでの活動を通じて考えてきたことを整理したうえで【誰に】【何を】【なぜ】伝えるのか、伝えた時にどんな変化が生まれるのか議論しました。それを踏まえて、実際に提案を行うための制作物づくりを始めました。

伝える／市政提案会

各グループの提案を市長・教育長・提案に関わる行政関係者の方々に伝える機会をつくりました。さらに提案内容を深めていく対話の場を設け、参加者と大人がコミュニケーションを取ることができるようになりました。

参加者情報／

対象者
武蔵野市在住 または
在学の中高生世代

参加人数
26人／定員30人

- ・ 中学生年代:13名、高校生年代13名
- ・ 市内在住:18名、市内在学:8名
- ・ 過去のムサカツ事業参加者:8名

参加の動機

- ・ 昨年度までのTeensムサカツに参加して、たのしかったから
- ・ 中高生世代の人と(学校外の人と)話しあう機会がほしかったから
- ・ 市(市政)について知りたかったから
- ・ 学校でチラシをもらって興味を持ったから
- ・ 友だちに誘われたから

運営団体／

令和5年度のTeensムサカツは武蔵野市の委託を受け、「NPO法人文化学習協同ネットワーク」がプログラムの企画運営を行いました。私たちは、高校生までの学習支援や様々な年代を対象とした居場所の運営、若者の就労支援事業などを通じて「自分らしく輝くために、学ぶ力を育てる、働く力を身に付ける」ことを応援している団体です。



グループファシリテーター

ムサカツの運営を行う際に、参加者の皆さんが取り組むワークを円滑に進めていくために「グループファシリテーター」という存在がいます。参加者の皆さんと比較的年齢に近い、大学生を中心としたグループファシリテーターが斜めの関係性の中で、参加者の皆さんの様々な発言、気づきを支え、活動をサポートします。





中高生(同)世代交流ができる場

中高生同士で話したい！ つながりを増やしたい！

グループで出たのは、「友だちと気軽に集まれる場がほしい」「もっと同世代と話したい」「学校外の活動に参加したい」などの声。現状では、①中高生が利用しやすい雰囲気や仕組みのある施設が少ないので、中高生の利用率が低いこと、②中高生主催のイベントや企画が少なく、中高生ならではの視点が活かされていないこと、などが課題だと考えました。

実現に向けた アイデア

中高生に向けての施設利用の促進

公共施設等の中高生世代の利用率を高めるために、世代や目的で場所を分けるなど、中高生を含めた多世代が利用しやすい空間をつくる必要があります。また、施設予約の際に、公式サイトからのウェブ予約を可能にするなど、利用手続きを簡単にすることも必要です。

中高生の視点からつくる、 中高生による、中高生のための ゼロからの企画

ワークショップやイベントの企画段階から中高生が参加すれば、中高生の視点に立った企画が生まれ、同世代の参加者が増えると考えます。ムサカツのような場でも、話し合うテーマを自分たちで決め、より豊かな発想を生むことができる機会をつくりたいです。



「同世代交流」というテーマでまずはおしゃべり。「友だちと気軽に集まれる場所が近くにない(あっても使いづらい)」「友だちをつくりたいけどきっかけがない」「自分たちでも何か企画してみたい」などさまざまな声が出てきました。

提言のきっかけ



武蔵野プレイスってなにができるの？ コミセンってなに？ 中はどうなっているの？

市内で中高生世代が多く利用している施設として、武蔵野プレイスと境南コミュニティセンターを見学しました。初めて行った参加者も多く、施設を自分の目で見たことで、「学校が早く終わる水曜日にに行ける場所がほしい」「いくつか行ける場があると目的や過ごし方によって使い分けられる」「部屋の予約手続きが分かりづらい」「知っている人がいないと行きづらい」など、自分たちの願いや感じている課題がより具体的になりました。

市政提案会での意見交換

Q 「ゼロからの企画づくり」は どのように進めるの？

A まずは中高生が日常的に集まることができる場所を増やしていくこと。武蔵野プレイスだけでなく、コミセンにも中高生が多く来るようになれば、そこで集まって企画を練ることができるし、その企画を多くの同世代に知ってもらうことができます。

市長・教育長の講評

「子ども」を一括りで考えないでほしいという話があった。中高生の活動に、まだ小学生は入りにくいことなど、年代別のハードルがあること、の気づきをもたらした。また、勉強したい、あるいはおしゃべりを楽しみたいそんな両者が共存できる場の必要性については用途に応じて、一つの場を作るだけではなく、やりたいことによって区分けしたり、防音をしたりする工夫の検討が必要。最後に、比較的授業が早く終わることの多い水曜日を避けて公共施設の休館日を設定してほしいということ。これは今後しっかり参考にしたい。

小美濃市長

同世代と交流できる場を設けたいという提案。お話を聞いてよく分かったことが、「場」という意味には2つあって、物理的な空間なのか、それともイベントのような機会なのか。お話を伺っているうちに後者のイベントなどの機会を設けてほしいということだと分かり、私自身すごく理解が進んだ。そういった機会が改めて大事だなと感じた。

竹内教育長

多世代交流ができる場

普段話せない大人と 交流したい！ 大人の人生について 聞きたい！

先生や家族以外の普段話せない大人と交流し、生の話を聞いてこれからの進路について考えたり、悩みを相談したいというのがこの提案を考えるスタートでした。一緒に料理を作ってみながら食することで信頼関係を築きながら交流できる空間がほしいと考えています。



実現に向けた アイデア

みんなで料理を作って食べながら
コミュニケーションをとれる
多世代交流の場「武蔵野食堂」

上記の願いを受けて参加者がみんな
で作って一緒に食べる過程を大切に
した「食堂」を運営する上で必要な
ことを考えました。



多世代で運営する実行委員会

実行委員は子どもから大人まで多世代が
参加し、多世代の意見を取り入れる工夫
をします。中枢の決定は子どもが担うこ
とで、大人が用意した環境ではなく子
どもの意見が大切にされる運営環境を作
りたいです。

クラウドファンディング
運営資金を参加費で賄うと、子
どもたちが参加しにくくなります。
クラウドファンディングの活用で
参加費を抑えるだけでなく、挑
戦を通じて活動予定や記録を発信し
ていくことで知名度を高めます。
さらに、市にも何らかの形で協力
してもらうことで信頼性を担保で
きれば良いと考えます。

提案のきっかけ

進路を考える参考に大人の話を聞きたい。
程よい距離感で悩みを聞いてくれたりしないかな…
「多世代が交流する」「大人と話をする」イメージ
しても、集まった先に話が盛り上がりすぎたり広がっ
ていくイメージが湧かない…具体的にどんな場
を作ることが出来るのか？がこのグループの提
言につながっています。



多世代の関わりを生む仕掛けを 実践している大人の話を聞いてみよう！①

いざフィールドへ！と思いきや、「多
世代が交流できる」だけでは分野も広く、
常設の施設もなかなか見つかりません。
そんな事情で、こどものまちを企画
運営する「TeensTownむさしの」の
神村さん、地域のプラットフォーム
「ぶらっと吉祥寺」の中村さん、地
域の清掃活動を通じて地域とつな
がる「greenbird」の谷村さん、多



様な切り口で交流するキッカ
ケ作りを行う3名のゲスト
からの活動紹介と参加者
とゲストでの座談会を
行いました。



市政提案会での意見交換

Q 広報やクラウドファンディングを
行う実際のイメージは？

A 最初はポスターを作成したり、自分たち
から近しい人への口コミから始めていく
必要があると思います。SNSの利用は継
続的な発信を怠らないようにしないと
いけないと考えています。

市長・教育長の講評

施設を作つてほしいという話ではなく、
空間と時間、食材などを用意する
ための予算がほしいという要望。実
際に運営する際に気になるのは、大
人をどうやって集めるかということ。
大人の「得意」あるいは「伝承」を
意識して地域で声をかけると、きつ
と誰かが反応してくれる。その誰か
がまた誰かにと人の連鎖で大人が集
まってくるかもしれない。基本的に
大人は非常に恥ずかしがり屋で、魅
力があっても引いてしまう。いかに大
人をこの場に引っ張り出していくの
かということが非常に大事だと思う。

小美濃市長

50人という規模感が適切なのかわ
かというのが疑問だったが、参加す
る側と企画する側を合わせるとそれ
ぐらいの規模になるということがわ
かった。また、クラウドファンディ
ングも有効に上手く活用していくん
だということを感じた。私自身の受
け止めとして一番大きかったのは距
離感を感じずにコミュニケーションを
取れることが大事なこと。多
世代が交流する機会では重要なのか
など感じた。

竹内教育長



多世代交流ができる場 やりたいことを 実現できる 場がほしい！

やりたいことの実現を考えた際に、‘子どもだから’という理由で生まれる障壁があることが分かりました。特に運営資金や支えてくれる大人の存在、参加者を募る前提として他者とのつながりに課題を感じ、理想とのギャップを埋めるための提言を考えました。

実現に向けた アイデア

同世代(中高生)に向けて 情報発信を行う媒体

現在の広報手段は、市民に対して中高生が直接呼び掛けることができる場が多くはありません。中高生に馴染みやすいSNSを通じて活動紹介や参加募集情報を発信できれば、より多くの人が集まり、活動が有意義なものになると考えます。

中高生世代が利用しやすい 助成金や補助金制度

現在の補助金制度は申請に必要な時間や準備の負担が大きいです。規模の小さいイベントをやりたいと考えた時に、少額の補助金でもいいので、もっと速く簡単に申請ができる補助金を求めます。

願いの実現に向けて
伴走・助言をしてくれるサポーター
知識や経験の少ない中高生世代にとって、経験豊富な方々に助言をもらうことはプロジェクトの実現につながると考えます。企画運営の主体は中高生であることを尊重し、介入しすぎずに支えてくれる大人の存在が欲しいです。



願いは色々。
グループで考えるテーマは？
「進路を考える」「色々な世代が集まってお喋りする」「保育をしてみたいけどキッカケがない」多世代交流をキーワードに様々な角度で興味があること、モヤモヤしていることを出し合うことからどんな提案作りを行うか話し合いを進めていきました。

市政提案会での意見交換

Q みんなの「やりたいこと」って
具体的にどんなことですか？

A まずはシンプルに、世間話や悩み相談など様々な世代で気軽にしゃべりをしてみたいです。さらにその先で言えば、多世代で社会問題や市の政策について議論してみたり、進路や職業について話を聞く機会にもなると良いと思います。



多世代の関わりを生む仕掛けを 実践している大人の話を聞いてみよう②

みんなが感じるモヤモヤや興味関心のおしゃべりから「多世代交流」に関する話題へ進みます。「大人と出会って話をし、進路を考える材料になる場が欲しい」「子どもが好きだけど、小さい子と出会ってお世話をする機会が無い」「大人と対等に社会問題について語りたい」など出てきた話を実際につくっていくことをイメージした時に大人の関与やサポートはどれくらい必要なのか？自分たちで「場」の運営はできるのか？を考えていくことに繋がりました。

市長・教育長の講評

自分たちはこう思っていて、大人に對してこういうふうにしてほしいというのを伝えたいという大人への要望があった。それは確かにあるのだらうと思った。また、子どもたちが何か実現をしたいけれどそこに様々なハードルがある場合に、その解決策を大人と一緒に話し合いたいという話があった。じつは大人も自分たちのやりたいことに対して皆さんの意見がほしい。なので、私たちもほしいアイデアをもらい、皆さんがやりたいことに対してアドバイスができる、そんなお互いがWIN-WINの関係の場を作るということはできるかなと思う。

小美瀬市長

提案内にあった「子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金」は私が担当している部署の制度。提案からプレゼンテーションまでの2ヶ月間が長いという指摘について、むしろ長いというのは準備ができて良いのではないかと考えていた。しかし長い期間がむしろ拘束されてしまふものと感じ、早くアクションをした方がいいのが皆さんの願い。少額で良いということを含め、もう少し改善する余地があると切実に感じた。

竹内教育長



運動・スポーツができる場

FREE&CASUAL in 武蔵野

自分たちの願いや想いを議論する中で、繰り返し出てきたのが「気軽に」という言葉でした。しかし、実際には部活が終わってから練習をしたいと思ってもその機会はなく、休日に友達と運動したいと思ってもそれができる場合は総合体育館の周辺に限られています。いつでも気軽にスポーツを通して同世代のメンバーと交流できることが願いです。

中高生に合わせた利用時間の拡大
中高生が部活終了後も利用できるように21時まで総合体育館を利用できるようにしてほしい。
屋外施設は冬季になると利用できる時間が短くなってしまうため、季節に関係なくいつでも同じ時間まで利用できるようにしてほしい。

誰でもスポーツに取り組めるような道具の充実

高額な道具が用意できないためスポーツを諦める人が出ないように使用頻度のリサーチを行い、道具を充実させてほしい。
陸上競技のように練習できる場所が限定されている種目でも誰でも利用できるように道具を増やしてほしい。



実現に向けたアイデア

より利用しやすい料金の設定
どの施設も高校生まで無料で利用できるようにしてほしい。また、市内在住だけでなく、市内在学であっても無料で利用できるようにしてほしい。
「年間フリーパス(5000円/年)」や「友達を連れてきたら割引」など新たな制度を導入してほしい。

気軽に体験するための利便性の追求

中高生が利用しやすくなるように駅の近くや、徒歩・自転車で行ける距離にスポーツ・運動できる施設をつくってほしい。
部活で疲れている場合や、悪天候の場合でも行きやすくなるように施設までの無料シャトルバスを導入してほしい。

全ての人が快適に取り組める環境の整備

地下や屋上等のスペースを活用し、騒音のトラブルを気にせずスポーツ・運動ができる場がほしい。
学校で配布されているタブレット端末等のデジタル機器を有効活用するためにもWi-Fi環境を充実させてほしい。

自分の身の回りにもスポーツ・運動できる場はあるんじゃないか？
気軽にスポーツする場がない現状に対して中高生たちは遠い場所まで出向いて運動していることがわかりました。しかし、同時に自分たちが過ごしている武蔵野市の施設や取り組みの情報が届いていないように感じました。そこで、まずは自分たちの近くにある施設や取り組みを見とめることにしました。



自分たちの声は伝わる！ ストリートスポーツ広場の 成り立ちを聞いて！

フィールドワークでは武蔵野総合体育館を見学しました。残念ながらメンバーたちとスポーツを通して交流を深める夢は叶いませんでしたが、弓道場など普段は見学することができませんでした。その後は、ストリートスポーツ広場を見学し、職員から成り立ちの経緯を説明してもらいました。ストリートスポーツ広場は市民の声から生まれた場であり、まさに自分たちが行っている活動につながるものでした。今後に向けてのヒントを得るとともに大きな後押しをもらった気がしました。

Q 「年間フリーパスのアイデアは おもしろいんじゃないか！」

A 年間5,000円は少し高いかもしれないが、保護者に負担してもらおう。ICカードをタッチすると誰が道具を借りているかわかるようなシステムも良いのではないかな。プレミアムプランとスタンダードプランのように2つのプランを用意してプレミアムプランには道具の優先貸出し権利を付けるのもありなのではないかな。

市長・教育長の講評

武蔵野市は小さな市で場所の確保が難しいため、一番頭を悩ませた。一つの解決策は、学校の有効利用だと思ふ。面白かったのは5000円の総合体育館年間フリーパスというアイデア。武蔵野市には昔から子どもに思いきり遊んでもらいたいという文化があるので、こうしたアイデアは実現の可能性もある。他にも体育館に中高生の優先枠を作れないかという要望もあった。曜日や時間の枠を決めたりすることでこれも実現の可能性はある。いただいたアイデアも参考に、皆さんが利用しやすい形に一つでも近づけるようにできたらいいと思う。

小美瀬市長

総合体育館や学校の部活動など、みなさんにとって身近にスポーツができる空間、場はあるのではないかと考えていた。お話を伺う中で、普段会わない、例えば違う中学校の人たちと練習をしたり、それを通じてそれまでとは違う仲間と自然に繋がることができ、そんな交流の場もほしいという希望なんだと感じた。中高生にとって、物理的な距離というハードルは高いのだということが改めて分かった。

竹内教育長

ムサカツを通じた 参加者のつぶやき

中高生(同)世代交流ができる場

武蔵野プレイスのB2フロアは、騒がしすぎる時も、入りづらさもある。

施設利用のハードル

武蔵野プレイスの休館日が水曜日や休日じゃないといいな

中高生向けの利用時間枠があるといい

グループで使える部屋があるといい。コミセンの予約手続きを簡略化してほしい

いろんなやりたいことを持った人が同じ場所でどう過ごすか(遊びと勉強で分ける?)

ムサカツのように発表したり話したりするのが楽しい。学校だとふざけちゃう。本当に思ったことを言いづらいこともある。

同世代交流についての願い

気をつかわない同世代の仲間がほしい。

趣味の合う人とつながりたい。

こんな場がほしい

勉強の合間に話したり交流できたりするといい

乳幼児と関われる場があったらいい

「見る専」(見るだけ、聞くだけ) OKにしてみる

「一見さんお断り」の雰囲気は嫌だ

将来について相談したい。進路に困っている。家族や先生に相談しづらいことも相談したい。自分のことをあまり知らない人の方が話しやすいこともある。

大人との関係性について

受け身だけでなく自分からもいける対等な関係

安全管理は必要。ルールを分かりやすく提示してほしい。

あだ名で呼んで、タメ口で話したい。

場所について

各地にある公園が数地になると思う。その中で、近所の住民に許可がとれるのであれば(バスケットゴールを)おいてほしい。

駅から近いのがいい。

住宅地が多いので騒音の問題をどうするか

徒歩30分圏内がいい(自転車15分)

吉祥寺駅前のバス通りを歩行者天国にしてイベントができないか

ストリート(パスケなど)だと、すぐできるし、いろんな大人との新しい出会いがある。

市役所周辺には充実しているが、武蔵野市全体での施設はまだこれからなのか?

建物の屋上や地下スペースなどを活用できないか

提案会に参加してくれた大人の声

中高生世代との協働の必要性を実感!



並木 英樹さん
武蔵野市市民部
市民活動推進課

参加なさった皆さん。お疲れ様です。ご提案の内容は本当に勉強になりました。皆さんが調べ、意見をまとめ、発表するまでもってきた経過や発表の内容に感銘を受けるのと同時に、皆さんの自由な発想に率直に衝撃を受けました。これからも住んでいる地域に関心を持って、ご意見をいただければ心強いです。今後とも一緒に武蔵野市をよりよくしていきましょう。

「これからの武蔵野市」を一緒に考えていきたい!



福原 綾乃さん
武蔵野市子ども家庭部
子ども子育て支援課

皆さんの提案には、「これからの武蔵野市」を見据えていくうえで、貴重な視点が沢山込められていたと思います。また、各回でみなさんが熱く意見を交わしている姿を見て、大人側も真剣に受け止め、一緒に考えてくことが大切だと改めて強く感じました。意見を整理し、提案をまとめるというプロセスは本当に大変でしたね。お疲れ様でした!

「大人」の存在や役割を考える機会に



中村 勇太さん
ぶらっと吉祥寺

あるチームは「多世代交流」を、またあるチームは「同世代交流」を望んでいました。交流したいという気持ちは共通しつつも、求める交流は様々であると分かりました。また、「大人」がどう関わるかが、重要なポイントになると感じました。今後は、大人だからできることを通じて、中高生の想いの実現を後押ししていきたいと思います!

貴重なご意見ありがとうございました



河内 幸子さん
公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団
スポーツ事業部スポーツ振興課スポーツ事業係(武蔵野総合体育館)

スポーツ・運動ができる場所が増えることで、同世代や大人との交流が生まれ、地域活性化にもつながる、その視点を持った様々な提案は市の条例や武蔵野総合体育館利用ルールに縛られない自由な発想で貴重なご意見でした。中高生世代が抱える課題とその背景も伝わり今回のムサカツメンバーとの交流はとても勉強になりました。

グループファシリテーターの振り返り／

グループファシリテーターとして活動に参加して嬉しかったことは、やはり中高生が中高生自身で市政への提案を考えて発表するという事に携われたことです。ただ自分たちに都合がよい提案をするのではなく、誰もが過ごしやすい・暮らしやすい武蔵野市を作るために何が出来るかを中高生のみならず深く考えていました。

ムサカツの活動を通じて、武蔵野市をより良くするためにはどうすれば良いかを考え、議論する中高生たちの姿は、とても尊いものでした。その姿をグループファシリテーターとして見られたことがとても嬉しかったです。私自身もムサカツを通じて学んだことはいくつもあります。本当にムサカツに携われて良かったと思うばかりです。



渋 村
成蹊大学

最終回の提言に向けて「なぜそう思ったのか」や「自分の目で見て、どう感じたのか」を言葉にし、活発な話し合いを行ってきました。

私はメンバーが何を考え、どう感じているのかを知り、次のステップに進めるようにフォローを行いました。回を重ねていくごとに、そのフォローは減っていく、自分たちで意見をまとめることができる回数が増えていきました。そういった場面を見ていて、メンバーの成長を感じ嬉しく思いました。

他にも学校であったことや好きなことなどメンバー自身のことをたくさん話してくれて、みんなのことを知ることができました。みんなとの会話ひとつひとつが楽しくて新鮮で、嬉しかったです。



らっちゃん
杏林大学

今回ムサカツにファシリテーターとして参加してみて嬉しかったことは、自分のアドバイスひとつで中高生たちの考えがまとまったり、停滞していた話し合いが進むようになったりしたことでした。

また、ムサカツに関係あることもないことも、参加者やファシリテーターのみんなと楽しくお喋りが出来たのも良かったです。ワークを振り返ると、対話をするなかで参加者みんなのそのまの言葉で考えをまとめる手助けがもっと出来れば良かったなとも感じます。

高校を卒業したばかりの私にとって、学校の活動以外で大人や同世代の方とひとりの仕事をするということ自体初めてで学びになることが多かったため、参加することが出来て本当に良かったと思います。



いっちゃん
成蹊大学

ムサカツ参加者の振り返り／

※参加者の振り返りシートより抜粋

- ・まず自分に自信がついた。大人に自分から色々説明していくうちに会話の中で補足が生まれて、さらに深く追求していくことができた。期待とほぼ同じで、しっかり市長や教育長にお会いして意見を伝えることができた。やり残したことであれば、市長やその他の大人の方々と話す時間が少し短すぎたと感じた。1回話しただけで自分の伝えたいことをすべていえるわけではない。
- ・ムサカツの、中高生主体で活動するという企画性に最初はすごく驚いたのですが、普段あまり表に意見を出さない私でも気軽に発言することができ、成長を感じられました。
- ・自分1人で考えるのと違って、みんなと話しているとどんどんアイデアが生まれていって、いろんな視点から物事を考えられてとてもおもしろかったです。
- ・グループCは皆色々な意味で個性豊かで、笑いながら作業ができたのでとても楽しかった。これからもちょくちょく会いたいと思った。
- ・回を重ねていく内に交流する人も増えていろいろな見方を知る事ができ、今回の課題の自分達なりの策を最後には市長さん達に伝えられて良かったです。
- ・市の大人とプレゼン&意見交換する場は、初め緊張していましたが、想像以上に中高生世代の意見・アイデアを求めてくださっていること、前向きに検討して、具体的な方法を一緒に模索して下さったことが分かり、市にアイデアを言うてみることの大切さを学びました！
- ・今回ムサカツで経験したことが、自分が求めていた「同世代交流の場」と「多世代交流の場」なのだと感じ、あらためて、それらの「場」の大切さと有効性について痛感することができました。
- ・僕自身が中高と市外の学校に通学していることもあり、市内のコミュニティが閉ざされていたため、同世代の学校外の方々と話す機会はとても貴重なものとなった。また、こういった場でないと話づらい踏み込んだ話ができた。
- ・普段中学生や大学生の人と話をすることがあまりないので、年齢層が広くて新鮮でした。
- ・ムサカツに期待していたこととその結果、期待と結果のギャップはあったか？ → 経験を積む、同世代と交流する（期待）／他世代との交流（結果）
- ・同世代の子たちと話すことは、学校外のコミュニティを広げてくれて学校ごとの違いを知ることにつながりました。
- ・今まで「子どもの権利」など、分野ごとに考えることはありましたが、「市全体」「全世代」で考えるのは初めて面白かったです。
- ・ムサカツに参加することで、市がどんなことを中高生に聞きたいのかや周りの中高生が普段どんなことを考えているのかが知れた他、市政に関わるきっかけにもなった。
- ・自分が市政に関わってみて、市も子供の意見を求めていることが新しい発見だった。



令和5年度、私たち「文化学習協同ネットワーク」が委託を受け、運営体制が変わりました。そんなタイミングで、こども基本法の施行とともにムサカツのような場、子どもの権利を保障することの必要性がより高まってきています。

意見表明や参画は一見堅苦しく、遠いものかもしれませんが。この報告書を手に取り、「自分も同じようなこと感じてた!」「私はこう思っているんだけど…」「こんなアイデアもあるんじゃない?」身近な誰かとそんな会話が始まるだけで社会との接点が広がっていくこと、ひいては様々な参画のキッカケになると信じています。

この事業を通じて、参加者の方だけでなく、より多くのみなさんと武蔵野市について一緒に考える機会を次年度も模索していきます。



令和5年度武蔵野市中高生世代ワークショップ「Teensムサカツ」
「こんな場があったらいいな」を市政に」提言まとめ

発行日 令和6年5月
発行 特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-14-3
TEL 0422-47-8706 / FAX 0422-47-8709

※ 本事業は特定非営利活動法人文化学習協同ネットワークが武蔵野市の委託を受けて実施しました。

一部資料提供:武蔵野市

趣味の合う人と
話せる所

地元の合間

多世代の合間

大人にいて

無料の場

他校も大人も外人も

気軽に話せる

多世代で楽しむ

イベントがにぎやか

大人が活躍の場

否定しない

地元の活性化

スポーツをビジネスに

職業を選ぶとき

意識して良かれ

思ふことも聞きたい

道路を歩く

騒音を気にせず

スポーツがで

ルールを

おかりや

提示して

伊いづら

多世代の合間
話せる所
地元の合間
多世代の合間
大人にいて
無料の場
他校も大人も外人も
気軽に話せる
多世代で楽しむ
イベントがにぎやか
大人が活躍の場
否定しない
地元の活性化
スポーツをビジネスに
職業を選ぶとき
意識して良かれ
思ふことも聞きたい
道路を歩く
騒音を気にせず
スポーツがで
ルールを
おかりや
提示して
伊いづら

多世代の合間
話せる所
地元の合間
多世代の合間
大人にいて
無料の場
他校も大人も外人も
気軽に話せる
多世代で楽しむ
イベントがにぎやか
大人が活躍の場
否定しない
地元の活性化
スポーツをビジネスに
職業を選ぶとき
意識して良かれ
思ふことも聞きたい
道路を歩く
騒音を気にせず
スポーツがで
ルールを
おかりや
提示して
伊いづら

多世代の合間
話せる所
地元の合間
多世代の合間
大人にいて
無料の場
他校も大人も外人も
気軽に話せる
多世代で楽しむ
イベントがにぎやか
大人が活躍の場
否定しない
地元の活性化
スポーツをビジネスに
職業を選ぶとき
意識して良かれ
思ふことも聞きたい
道路を歩く
騒音を気にせず
スポーツがで
ルールを
おかりや
提示して
伊いづら

多世代の合間
話せる所
地元の合間
多世代の合間
大人にいて
無料の場
他校も大人も外人も
気軽に話せる
多世代で楽しむ
イベントがにぎやか
大人が活躍の場
否定しない
地元の活性化
スポーツをビジネスに
職業を選ぶとき
意識して良かれ
思ふことも聞きたい
道路を歩く
騒音を気にせず
スポーツがで
ルールを
おかりや
提示して
伊いづら

多世代の合間
話せる所
地元の合間
多世代の合間
大人にいて
無料の場
他校も大人も外人も
気軽に話せる
多世代で楽しむ
イベントがにぎやか
大人が活躍の場
否定しない
地元の活性化
スポーツをビジネスに
職業を選ぶとき
意識して良かれ
思ふことも聞きたい
道路を歩く
騒音を気にせず
スポーツがで
ルールを
おかりや
提示して
伊いづら

多世代の合間
話せる所
地元の合間
多世代の合間
大人にいて
無料の場
他校も大人も外人も
気軽に話せる
多世代で楽しむ
イベントがにぎやか
大人が活躍の場
否定しない
地元の活性化
スポーツをビジネスに
職業を選ぶとき
意識して良かれ
思ふことも聞きたい
道路を歩く
騒音を気にせず
スポーツがで
ルールを
おかりや
提示して
伊いづら

多世代の合間
話せる所
地元の合間
多世代の合間
大人にいて
無料の場
他校も大人も外人も
気軽に話せる
多世代で楽しむ
イベントがにぎやか
大人が活躍の場
否定しない
地元の活性化
スポーツをビジネスに
職業を選ぶとき
意識して良かれ
思ふことも聞きたい
道路を歩く
騒音を気にせず
スポーツがで
ルールを
おかりや
提示して
伊いづら

発行
特定非営利活動法人
文化学習協同ネットワーク

多世代の合間
話せる所
地元の合間
多世代の合間
大人にいて
無料の場
他校も大人も外人も
気軽に話せる
多世代で楽しむ
イベントがにぎやか
大人が活躍の場
否定しない
地元の活性化
スポーツをビジネスに
職業を選ぶとき
意識して良かれ
思ふことも聞きたい
道路を歩く
騒音を気にせず
スポーツがで
ルールを
おかりや
提示して
伊いづら